

地域医療連携だより

2018.9
第43号



兵庫医科大学病院

〒663-8501 兵庫県西宮市武庫川町1番1号
TEL.0798-45-6111(大代表)
<http://www.hosp.hyo-med.ac.jp>



医療支援センターにおける看護師の役割について

医療支援センター 副センター長 加地 靖子



平素は何かと兵庫医科大学病院にご協力を賜りありがとうございます。

1号館1階、外来フロアの日抜き通りに医療支援センターを開設し1年が経ちました。センターでは患者さんの、外来から入院、退院後の生活まで、切れ目のない療養支援を目指し、医師・看護師・ソーシャルワーカー・事務職員などが一丸となって取り組んでいます。看護部からは専従の入院支援・退院支援看護師を配置し、入院を予定している患者

さんに、入院生活に関するオリエンテーション、入院中に行われる治療・検査の説明、服薬中の薬の確認等を実施し、患者さんが安全に安心して医療を受けられるよう支援を行っています。同時に、患者さんのリスクアセスメントや退院支援スクリーニングを早期から行うことで、最も適切な時期に、適切な場所に患者さんが戻れるように、取り組んでいます。

患者さんの一番近くで24時間365日をつなぎ働く看護師は、情報や人をつなぐコーディネーターとしての役割を担っています。院内の診療科間等の連携が上手くいかず、患者さんや紹介元の先生にご迷惑をおかけしていることもあるとお聞きしています。今後、コーディネーターとしての役割の重さを再認識し、隙間のない地域連携体制を目指し、患者さんや紹介元施設の方々に満足していただけるよう、病院職員間の円滑なコミュニケーションやチーム医療を推進していきたいと思えます。

また、当院の専門看護師・認定看護師が主となり、「地域で“暮らす”“生きる”を支える看護連携」を目指し、地域連携交流会を開催しています。今後もさまざまな趣向をこらしていきたいと思えますので、ぜひ、皆さまのご参加をお待ちしております。

今後とも、ご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

骨吸収抑制剤薬の副作用である顎骨壊死の予防について

歯科口腔外科 主任教授 岸 本 裕 充



骨粗鬆症患者の骨折を予防するためのビスホスホネート (BP) や抗 RANKL 抗体製剤によって、まれではありますが、骨吸収抑制薬関連顎骨壊死 (ARONJ) を発症することがあります。薬剤添付文書にもありますように、「顎骨壊死」だけでなく「顎骨骨髓炎」の病態も混在しています。顎骨骨髓炎の原因としてはう蝕と歯周病が大部分を占めることから、骨吸収抑制薬を投与する際には、歯科でのう蝕と歯周病の管理状態を確認する必要があります。今年の6月に、9年ぶりに厚生労働省のホームページの「重篤副作用疾患別対応マニュアル」における ARONJ の部分も更新されました (下記 URL 参照)。このマニュアルの改定には、私も委員会メンバーとして関わりました。ぜひご活用ください。

抜歯は、ARONJ を発症するリスクの高い処置とされてきましたが、局所感染の持続もまたリスクであり、局所感染の制御のために抜歯しか選択肢がない場合には抜歯するべきと考えます。抜歯時の BP 休薬の是非には議論がありましたが、当院での前向き臨床研究で、経口 BP を休薬せずに抜歯すると、抜歯窩の治癒は遅延するものの、研究期間中に1例も ARONJ を発症せず、安全に抜歯することができました。何かお困りの点がありましたら、遠慮なくご相談ください。

「重篤副作用疾患別対応マニュアル」骨吸収抑制薬に関連する顎骨壊死の顎骨骨髓炎

URL : <http://www.mhlw.go.jp/topics/2006/11/dl/tp1122-1113.pdf>

小児にやさしい外科手術 — より短い治療期間、小さな傷をめざして —

小児外科 教授 大 植 孝 治



兵庫医科大学病院小児外科では、鼠径ヘルニアや臍ヘルニアなどの小手術は、患児・ご家族の負担軽減や利便性の向上のために日帰り手術を実施しています。手術前日10時に入院していただき、午前中に手術や麻酔に必要な手続きを済ませて、午後から外泊し、手術当日朝に帰ってきて手術を実施。調子がよければ即日夕方退院できます。

また、身体への負担を減らし、将来にわたって手術による傷跡に悩むことのないように、安全性に重点をおいた内視鏡手術を積極的に行っています。現在実施している主な内視鏡手術は、鼠径ヘルニア根治術など日常の小児外科疾患を初め、虫垂切除術、腸重積症手術などの救急疾患や、脾臓摘出術、メッケル憩室切除術、先天性胆道拡張症、鎮肛根治術、ヒルシウスプルング病根治術、腫瘍摘出術、漏斗胸手術、肺切除術など様々です。また重度精神運動発達遅滞の患者のケアに必要な胃瘻造設術、噴門形成術なども内視鏡手術で行っており、当科における全身麻酔手術の半数以上が内視鏡手術となっています。

最近では、より傷が目立たない単孔式手術など、最先端の手術手技も積極的に導入しており、虫垂炎の手術の大半がへそからのアプローチのみで行っています。

今後とも地域に貢献できるよう診療を行ってまいりますので、どうぞ宜しくお願いいたします。

ペインクリニック部について

ペインクリニック部 高 雄 由美子



兵庫医科大学病院ペインクリニック部では、主に痛みの治療に取り組んでいます。通常の鎮痛薬では痛みのコントロールが困難な患者さんに対して、神経ブロックと薬物療法はもちろんのこと、難治性疼痛患者さんには、硬膜外腔に電極を挿入して電気刺激をする脊髄電気刺激療法(SCS)なども行っています。この10年で痛みの治療は劇的に進化しました。痛みの治療に使える薬物の種類が増え、エコーを用いた神経ブロックや高周波熱凝固による神経ブロック、パルス高周波療法なども発展し

てきました。SCSに使用する機器も進化しています。当部では、がんの痛みに対しても神経破壊を伴うブロック(内臓神経ブロックなど)や脊髄鎮痛法(硬膜外カテーテルやクモ膜下カテーテルポート作成)が可能です。

わが国における大規模調査(臨整外47(6):565,2012)では、26.4%が慢性疼痛に苦しむとされ、その数2,700万人にも及ぶと推定されています。痛みでお困りの患者さんがおられたら、どうぞお気軽に御紹介または御連絡ください。



開催報告：第18回 地域医療懇談会

2018年(平成30年)6月16日(土)午後4時から、ホテルヒューイット甲子園において「第18回 地域医療懇談会」を開催しました。本懇談会は、阪神圏域の医師会を中心に、地域の医療機関との病診・病病連携を深め、社会が求めるより良い医療環境の充実に努めるため、毎年開催しています。

I部の懇談会では、当院医療支援センター長の挨拶で開会し、当院副理事長の挨拶に続いて兵庫県医師会 大江代議員会議長のご挨拶をいただき、当院病院長の挨拶がありました。その後の講演では当院の看護部長、呼吸器内科診療部長、放射線科診療部長の3名が、それぞれの部及び診療科の特色について発表を行いました。

II部の懇親会では、医療支援センター長の開会の挨拶の後、宝塚市医師会 栗田義博会長に乾杯のご発声をいただきました。その後は活発な意見交換が行われ、医療支援センター副センター長の閉会の辞で終了しました。

各医師会および各医療機関から医療関係者107名、兵庫医科大学病院関係者52名、合計159名の参加があり、盛会のうちに閉会することができました。

ここに感謝をもちましてご報告申し上げます。



開催報告：第12回・第14回 阪神沿線健康講座

「阪神沿線健康講座」は、兵庫医科大学病院と阪神電気鉄道（株）が沿線住民の健康増進による沿線活性化を目的として共同開催しており、今回の講座では「目」と「アンチエイジング」をテーマに、第12回（6月28日）は大阪梅田のハービス ENT で、第14回（7月18日）は芦屋市民センターでそれぞれ開催しました。

講座内容は、第12回は眼科の五味文診療部長が「加齢に伴う目の病気 ～あなたの目を守るために～」について講演を行い、95名の参加が、第14回は糖尿病・内分泌・代謝内科の庄司拓仁講師が「老化を進める原因物質からみたアンチエイジングの方法とは？」について講演を行い、74名の参加がそれぞれありました。講演後、参加者との質疑応答も活発に行われ、アンケートでもとても満足度の高い評価をいただくことができました。今後も地域の皆さまの健康増進に資する様々な取組みを展開していく予定です。

※第13回阪神沿線健康講座「こどもの急病 その時どうしますか？」は、天候不良により開催中止とさせていただきます。



兵庫医科大学病院からのお知らせ

神経内科の名称変更について

診療内容をより良く理解していただくため、2018年（平成30年）10月1日より下記のとおり変更しますので、お知らせいたします。

神経内科 → 脳神経内科

健康医学クリニック・人間ドック予約受付中

兵庫医科大学病院や関連病院と連携し、早期に対応する体制を整えており、高度先進医療と予防医学の拠点を目指しております。

また、午前中終了コースや土曜日開院、レディース・デイの設定、脳ドック・各種がん検診・PET/CTなどの多彩なオプションも取り揃えておりますので、ぜひご利用ください。

お問い合わせ先：健康医学クリニック 0120-682-701（直通）
専用ホームページ <http://www.hyo-med-kenshin.com/>



救急ホットライン

医療関係者専用の各科医師への直通電話です。24時間365日、交換手を通さず、各科医師に直接かけられます。緊急症例、診療のご相談など何でもお気軽にお電話ください。

☎ 全ての重症疾患もしくは受け入れ先に迷ったら・・・

0798-45-6812 (救急科医師)

循環器疾患と思ったら

080-2475-7380 (循環器内科・冠疾患内科医師)

脳疾患と思ったら

080-2529-8239 (脳神経外科医師)

画像転送用アドレス：hyougo.nougeka@gmail.com